

平成 22年 2月 16 日

博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2103号
学籍番号 0727022013
氏 名 Dang Duc Nhu

論文審査員

主 査 (教授) 中谷 壽男

副 査 (教授) 塚崎 恵子

副 査 (教授) 城戸 照彦



論文題名 Hormone levels in the saliva of lactating Vietnamese mothers in a dioxin hot-spot area

(ベトナムダイオキシン高濃度汚染地域における授乳中の母親の唾液中ホルモン値の検討)

論文審査結果

本研究の目的はベトナム戦争中に散布された枯葉剤の高濃度汚染地域 (Binh Dinh 省 Phu Cat 県) と非汚染地域 (Ha Nam 省 Kim Bang 県) において枯葉剤 (オレンジ剤) の暴露とステロイドホルモンを指標とした人体への健康影響との関連を検討することである。対象者は生後 4 週から 16 週の乳児と授乳中の 20-30 歳の母親とした。汚染地域では 58 名、非汚染地域では 53 名から、本研究参加への同意がベトナム語による文書での説明の後に得られた。疾患の危険因子等に関する情報は母親への面接調査から得た。7 種類のステロイドホルモンの測定のために、すべての母親から母乳を採取し、さらに、汚染地域 41 名、非汚染地域 19 名の唾液を採取した。母子の身体計測を行い 2 地域間で比較検討した。本研究実施に当たっては、金沢大学医学倫理委員会の承認を得ている (番号 ; 保 89)。汚染地域における乳児の体重と胸囲は有意に非汚染地域よりも小さいが、年齢 (週数) も汚染地域の方が有意に低かった。汚染地域における母親とその家族の現病歴は非汚染地域よりも有意に多かった。母親の視力は両眼とも 2 地域間で有意差は認められなかった。汚染地域と非汚染地域双方の母親の唾液中のコルチゾン値は、母乳中のコルチゾン値と高い相関を示した ($r^2=0.70$)。近似二次曲線は唾液中コルチゾン値が 22,000pg/ml を頂点とし、それより高値では母乳中コルチゾン値はやや低下を示した。但し、汚染地域と非汚染地域間で唾液中の各種ホルモンの平均値に有意差は認めなかった。今回の研究では、唾液中のホルモンが初めて測定され、その結果母乳中の同ホルモンと良好な関連を示したことは、今後の調査対象を授乳中の母親から拡大することが可能になった点で有意義である。但し、今回の成績は両地区間に有意差を認めなかったが、その一因には、十分な対象数を確保できなかったことがあげられる。今後の課題は、より客観的な検査指標である唾液中のホルモン分析を大規模に実施することで枯葉剤による内分泌系への健康影響を明らかにすることである。公開審査では、対象者の選定や対象地区の特色、両地区間での検査成績の比較検討、唾液中ホルモンの測定意義やダイオキシン分析について質疑があった。

以上の結果を踏まえて、本研究は博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。